

第4回新宿区文化芸術振興会議（第7期）要旨

■開催日時 令和5年12月20日 午後2時から午後4時まで

■開催場所 新宿区役所本庁舎 6階 第二委員会

■出席者

委員 垣内恵美子 星山晋也 藤岡紗絵 堀家睦子 梅本武文

大和滋 飯田直子（欠席 高階秀爾 工藤真実 岡室美奈子）

*敬称略、文化芸術振興基本条例に規定する分野別の順（会長・副会長を除く）

事務局 鯨井文化観光産業部長 村上文化観光課長 原文化観光係長 内藤主事

■議事の進行

1 開会

（1）高階会長が欠席のため、垣内副会長が代理して文化芸術振興会議の開会を宣言し、開会した。

（2）本日の進行について、次第に沿って進行することを確認した。

2 議事（要旨）

（1）新宿区文化芸術振興会議の内容確認について

資料に基づき前回会議（令和5年7月18日開催）の内容の確認を行い、資料のとおり承認を受けた。

（2）調査審議事項

第7期調査審議事項について、資料に基づき、事務局が説明した。

（3）意見交換

（4）その他

【以下 意見交換】

・資料4で「新しい生活様式を見据えた」という表現を削除する方向性だが、ここ3年間の議論というか、コロナ禍で環境が少し、議論の中身を狭くしたような気もしていて、どちらかというとICTというかSNSが手段に特化した議論に陥ってしまったかと思う。

・そこを脱して違う観点からとなると、資料3にSFMMの再定義という言い方をしているのと、SFMMの活用というまとめがある。

・SFMMは一体何だったのだろうかをもう一度考えると、新宿は、本当に何か打ち出す1つのテーマがないというか逆に多様だということから、新宿のまち自体が多様な文化の博物館みたいな考え方があって、これをどう表現していくか。1本の価値を言うならいいが、多様なものをアピールしていくことで議論をしたと思う。

・再定義にもあるが、多様性だけに焦点を当ててしまうと、やはり拡散してしまうことが一方であるので、何らかの核をつくらなければいけないということと、参加が当初からかなり広がって、50ぐらいだったのが、この何年間で130ぐらいになったのか。

- ・そういう中で参加者の意識をつないでいく核みたいなものを、テーマではなくて核をきちんとしていかなければいけないのかなと。
- ・情報発信が十分でないと、SFMに対して参加意識がまだ薄い。だからこの核をもうちょっと何かしていく手を次に打たなければいけないのかな
- ・ここ10年の成果を踏まえ、コロナの教訓を得て次のステップに行くことが必要なのではないか。
- ・参加意識向上ということと言うと、今、地区別の村みたいな形でやっているが、交流の濃さとかも考える。あるいは、外部からの分かりやすさで考えると、もう少しサブグループというか、分野ごとの集まりを明確に打ち出していくほうがいいのか。
- ・地域ごとに多様なものがあることよりも、新宿は、小劇場がいっぱいあり、ギャラリーも結構あったり、音楽もそうだが、あと文化財も含めて、コアを打ち出していかなければいけないのではないか。
- ・そういうことをして、運営体制の強化とか、運営への参加を促すようなものを、1つは、意識的な面でもう一度多様性をいかにうまく訴えていくかということと、そのコアをどう作っていくかという意識を明確にしていくという、イメージチェンジの何らかの言葉が必要か。
- ・もう1点は、共通のイメージをするために、核が必要なのかということと、「情報発信に特化する」ことがあったが、ICTを使う場合でも、共通基盤は皆さんウェブなので、これが生かされていない部分がある。この強化とそこで多様性を訴えるようなコンテンツをつくり上げていって、継続的に発信する。そのことで参加感を高めていくとか。
- ・それと、主催イベントもやっている。これをウェブとかSNSとの連動性を高めるような、ここで各主体が参加できる構造をつくるような、もうちょっと立体的なつくり立てにそろそろ意識的に変化していったほうがいいのかと。
- ・SFMは、情報を集めるだけでスタートしてきたような気がするので、そういうようなことが1つ言えるのかなと思う。これがSFMの活用という観点での1つの考え方ということだが。
- ・新宿駅西口再開発については、令和5年のまちづくり戦略プランの見直しで少し文化的な要素が加わった。また見直されるのかということと、今期のまとめによって、どういう影響があるのかというようなことをお伺いしたかった。
- ・よく再開発ではいろいろな地権者が絡まるので、ここからここまではこの地権者の土地なのでとか、大きな広場ができて何もできないみたいな。広場の管理・運営主体というのは一本化できるようになっているのか。
- ・例えばJRのところのデッキのことであると、地べたがJRになり、おそらくそのデッキを管理するのは、JRになると思う。
- ・一体的につくっていかうということがあるので、ばらばらに開発したのでは何も魅力が出てこない。かなり長期的に、具体的に方向性も示したグランドターミナル構想と、それ

そのまちづくり戦略プランができていますので、その方向性に向かって、いろいろな地権者が共通の目的を達成するために具体化すると理解している。

- ・民間企業は、賑わいを創出しなければ要は儲からないわけで、いかにお客を誘客していくかが1つの役割。それが地域貢献にもつながるということになると思う。

賑わいの創出のためにいろいろな事業者をまとめて、エリアマネジメントをしていく組織もできてくるかと思う。いろいろな主体が一緒になって、賑わいを創出していこうと思う。

- ・今後開発に向かって、例えば今期の報告書に何らかの文言を入れた場合、ある程度の参考として生かされていくのか。

- ・所管が違うので、法律上強力な力を持つことではないと思うが、区長部局として配慮されるものだろうと期待はしている。そのあたりの見込みと、どのくらい詳細を書き込んでも大丈夫そうなのか。

- ・あるいは、ある程度フリーハンドでいくのか。それによってこの骨子も立て付けが少し変わってくると思う。そのあたり、今の感触だけでも結構なので、共有していただくといろいろな意見を出しやすくなるのかと思う。

- ・今後の実際の設計でどこまで生かされるかは、恐らく様々な制約が出てくるかと思う。この会議として、例えば何時から何時まで使わせてくださいとか、年齢制限はやめてくださいとか細かい条件というよりも、こういう方針で整備をしていただきたいみたいな形のご提言をいただけると。大きなところで、例えば公開空地等の活用を推進していただきたいとか。都市計画部も同じ思いは持っているので、文化的な活動もしっかりと推進できるような形にしてほしいと提言したほうがいいのかなと感じている。

- ・流れというかベクトルは同じ思いがあるということなので、いろいろなご意見を頂き、うまい形でランディングすることにした。

- ・SFMに関して、情報力の強化が、どのあたりのことなのかと思った。

- ・情報としてはそれぞれの活動に関して十分発信はなされているが、SFMとしての発信力としての求心力というか、そこを恐らく核ということで表現なさったと思う。

- ・そこにメディアとして、ウェブサイトを持つので、そこをもう少し活用のしようがないかという趣旨と理解した。

- ・その求心力をどのようにつくっていけばいいのか。残念ながら今のサイトが、SFMという名前はつけているが、掲示板の域を出ていないような気がする。

- ・例えば、比較で考えると、中央区とか東側で東京ビエンナーレをしているが、ディレクターの方がいて、個々の活動は活動としてそれぞれしっかりとしたものがある。

- ・その上にキャップとして被せるようなコンセプトなりメッセージ性というものがあるってこそそのSFM。SFMというフィルターを通して見るからこそ、新宿の文化の多様性であったり、まちの魅力が見えてくることをディレクションする機能を設けることが急務と思った。

- ・そういうディレクションの先の、どういうメディアやツールを使って発信をしていくかという中に、SNSの活用であったり、ウェブサイトの作り方が伴ってくるような気がする。そういった機能が今あるのかというと、サイトだけ、あるいはイベントとしての発信物を見ている限りにおいては見当たらないので、そこを考えてはいかがと思う。
- ・そういったことがあると、外から来る方にとっても、そこを入り口としながら、ご自身でのアプローチということを見つけていただき、より新宿区との接点が日常的なものになり、より活性化の裾野が広がっていくのではないかと考えた。
- ・西口の開発に関しては、非常に複雑なプロセスを経て、都市開発がなされていくのだろうなと思っており、文化芸術がその都市の中に息づきながら、その賑わいに資するものであるということはもちろん願っているが、様々な法規も含めてのプロセスの中に、うまく入っていかないことには、生きていけないような気もしている。
- ・なので、都市開発のプロセスの中で、文化芸術の重要性がどの程度意識的に議論されているのかということを知りたいと思った。
- ・世界を見渡せば、文化芸術において都市が生き生きとしている事例はいくつもある。そういうことを参照したのかとか。実際に、そういった事例もそれぞれの分野でよくご存じの委員の方もいるかと思う。
- ・例えばそういったことを、然るべきタイミングで差し込むこと自体が、先ほど文言としていくつかプランに反映されているという説明もあったが、そういったことにも生きるようになるのではないかと感じた。
- ・都市計画は、会議体において専門家の方々がやっている。「まちの記憶」というキーワードが結構出てきたり、文化もしくは芸術という言葉は入らないのかという話はした。整理する中で、「文化と芸術だけなの？」みたいな話があり、「まちの賑わい」にまとめたいという話で、まちのに賑わいに公共空間を使っていくような表現にまちづくり戦略プランはなった。
- ・一方、どの段階で提言するとインパクトを与えられるのかは、これは今すぐにお答えできない。個別具体でどういうものをつくるかという話は、どこの段階でというのが難しいと思う。設計段階がいつになるとか、積算がどうかというような話なので。
- ・個別具体にこうしてほしいということは、都市計画というより実施段階の民間会社のところになってくるので、基本的には何らかの分野を推進してほしいとか推進してほしいとかといった形が反映はされやすいと感じた。
- ・1点目の「ICT活用による情報発信の強化」。情報発信の仕方は、大きく分けて3つあると思っており、3つある対象のところからまずお話ししたい。ここ15年ほどで急激に日本で浸透したスマホを頭に置きながら、お聞きいただければと思う。
- ・1つ目は、こちらから主体的に情報発信をしていくこと。分野というかコアをある程度絞りながら打ち出していくことは賛成で、文化芸術はもともとバラエティに非常に富む多様性、ダイバーシティの世界。逆にダイバーシティの世界を全て網羅的に情報発信する

と、見る方は混乱する。絞り込みながら発信していくのは賛成。その他、受け手にとって分かりやすい情報発信が何なのかという観点が非常に重要だと考えている。

- ・2つ目はメディアを通じての情報発信で、1つ目の主体的な情報発信にはコストがかかるが、これはお金をかけずに発信できる。スマホ向けのニュースが今主流になってきていて、紙雑誌の会社以外にウェブ媒体の記者もかなり増えていて、発信量も非常に増えている。文化芸術全般というより、例えば美術の中でも、スマホでご覧になる方が今非常に増えているのと、スマホ媒体での発信量が今は劇的に増えている。だから、メディアを通じてどう発信していくかという観点が要る。

- ・3つ目が、新宿に来る方、お住まいの方が情報発信のターゲットになると同時に、来ていただいた方々が発信するSNS発信の量は、今極めて重要だと考えている。「よかった」という第三者の方が写真つきで情報発信してくるような形になり、3つ目の観点がまちの賑わいを創出するときに非常に大きいと思う。

- ・3つの情報の発信の仕方、ルートを意識しながら議論をしていかないと、具体的な取組につながる提言というものに、なかなかつながらないのではないかと。

- ・そういった観点で、3つ目の新宿に来られる方、住まれる方が自ら発信しようと思うところについては、それぞれ各文化事業者のところでの個別の努力も要るが、もう片方の公開空地の活用という観点では、やはり3点目の情報発信と連動するところが非常に多いと思う。

- ・公開空地でやったところの展示物なのかイベントなのか、なかなかこれからのあるかと思うが、来られた方がよかったと感じるものは、言葉だけではなく、今はスマホなので、映像とともに発信していくという形なので、2つのテーマは個別ではなく、新宿の賑わい創出という観点では、非常につながってくるものではないかと考えている。

- ・情報発信のところ、特に拡散というのか。コストがかかるプライマリーインフォメーションを出すだけではなく、受け手の方々にも拡散していただき、そのコミュニティに浸透していくような議論はこれまでもしてきたが、文化芸術団体がそこまで自身でケアできるかということ、今の段階ではそこまでではないかなというところもあった。

- ・SFMを核とした、そういう情報発信ができないかという議論もしていた。情報発信のあり方はすごく複雑で、しかも進化している。役所だけが、あるいは主催者だけが情報発信するという時代はもう終わっているというところは、まさにおっしゃるとおりと思う。

- ・3年位前にSFMガイドブックを見て、「何かやっているのだな」とかいうぐらいにしか思っていなかった。

- ・オペラシティ、新国立劇場、フェア等にはおのずと足が向いて、美術は大好きなのでSOMPOさんとかはちょこちょこ行かせていただいたりはしていた。

- ・3年前に手にしたときはあまりインスパイアされない感じだったが、委員もさせていたでいるので、できるだけ行った。音楽はもとより演劇とかも見た。

- ・秋の文化体験プログラムはいいと思った。新宿は染物とかもあることを、改めて体験さ

せてもらった。あと矢来能楽堂は前から知ってはいたが、改めて行くと、こんなすごいところがひっそりあるんだみたいな、本当に新たな発見だった。

- ・それと林芙美子のお宅とか佐伯祐三、中村彝とか、落合エリアの文化的なところも体験させていただいた。

- ・林芙美子宅は、ちょうどそのときイベントも重なっていたのもあったかもしれないが、不便だなと思うような場所だが、相当な人が来られていた。

- ・その辺にいる人に「どうして来られたのですか」と聞いたら、インスタやXとかを見て来たという人が10人位か。やはりそういうふうな発信に今は変わってきているというのを、身をもって感じた。あと外国の方も相当来られていた。

- ・あそこは庭がすてきで、本当に広くて、よくあんな崖みたいなのところにお家を建てたなと感心しながら見ていたが、すごいと思う。

- ・壺井栄さんからもらった素敵なオリーブの木とかがあり、そういうのは外国の方が好きで、撮ってその場でSNSに上げていたので、これはまた増えるなと思った。

- ・すごく広がっているというイメージは受けるが、SFMを知らない新宿区民は多いと思う。コアを決めるのはすごく大事だと思っていて、ガイドブックはいろいろな分野のものを集めて載せているので、「オペラ行っている。これ知っている。SOMPOの、はいこれ行った。」みたいな感じで、ぶわっと広い。それがコンセプトだとは思いますが、もう少し絞って。

- ・SFMのサイトを見たら、常に新しいものもアップされていて、来年開催のオペラの情報も入っていた。

- ・例えばオペラシティの裏話的なものをYouTubeに上げていて、そういうものにすごく興味があってよく見ているが、視聴者数は少ない。すごいことを発信しているのに、届いていないのがすごくもったいないと思ったので、これをもっとインプットできるように変えていければいいというのが、1つの提案である。

- ・西口に関しては、ある程度いろいろしがらみもあって大変なのかなと思うが、これからできる新宿グランドターミナル。後は小田急と東急が一緒になって建てているのが2029年にできる。「主な事業者」というので、国交省とか東京都、新宿区、国を絡めてある。それとJR、小田急、メトロ、京王、西武か。東急も入ってくるのか。そこに、新宿区ができるとすれば、民間に自治体からこういうことをやってもらいたいみたいな提案をするのは可能ではないかと思う。

- ・東京メトロは公益財団法人メトロ文化財団を持ち、コンサートやギャラリー、文学館、歴史教室などを既にやっている。池袋中心だが、新宿でもそういうのをプッシュすれば絶対できるのではないかと思う。

- ・そういう民間を巻き込むところを新宿区は都と一緒にやってやる。そういうふうに持っていくような方向性、そういうのが一番手っ取り早い。

- ・そうしたら絶対賑わいのある形になるし、そこで見たものを撮ってすぐインスタにアッ

ブするみたいな、林芙美子さんの所で見た光景のような感じになる。

- ・そんな感じにいけば賑わいもあるし、文化芸術、そういういろんなものも広まっていくかなと思った。

- ・みんなでウィン・ウィンな関係をつくっていく。それぞれ思惑も目的も違う、財源も違う中で、どのようにうまくシナジー効果を上げていくのかというところが、行政の1つの手腕かと思う。

- ・子どもを対象にしたイベントを開催するNPOをやっているが、演奏中や講演中は、写真撮影はしてはいけない。子どもを連れているので写真、記録を撮っておきたい人がとても多いので、終了後は、ニーズに合わせて一緒に撮ってもいい写真スポットみたいなのを作るようにしている。

- ・演者も協力して、一緒に写真を撮ってくれる。自ずと発信してくれるであろうという思惑もあるが、満足度もすごく上がり、お互いそれはウィンウィンになっていい。

- ・例えばこういうハッシュタグを付けてくださいみたいな形で、SFMとして取り組むべきことなのかというと、そう思惑どおりには進まないのではないかなという感じもある。

- ・ただ、意識的に見栄えがするスポット、林芙美子記念館がすごく写真に上がるのは、多分紅葉の季節はすごく美しい。近くに住んでいるが、よく「どこですか」と道を聞かれる分かりづらい場所にあるので、そういった案内とか公共の果たせるガイド的なところも大きいのかと思った。

- ・新宿観光振興協会のサイトをフォローしているが、発信されているなと感じる。自分では取りにいかないような情報が多いのが面白いと思って、区民に向けてそういったところを案内するのもいいのではないかな。

- ・自分のまち、我がまち、ふるさとが賑わっているという感覚を子どもも大人も持つということは、発信力にもなると思う。

- ・SFMガイドブックには知らなかったことがたくさんあると思うので、このSFMの期間中2か月はお祭りだという、土日が来たら今日はどこに行こうかなと家族で話しているぐらいの定着したものになっていくと、より賑わっているのではないかなと思った。それがICTの情報発信の強化という点である。

- ・新宿区の乳幼児文化体験事業で、公演そのものを発信しているが、対象が乳幼児であると、体験というか五感を使うことが大事だと思うので、情報発信情報に特化したダイジェスト版と、感想みたいなものを新宿区として発信することで、次のターゲットにつなげていくほうがいいのではないかな。

- ・発信のときに音響や映像にこだわろうと思うと、本当に難しい。これを乳幼児に届けるのは、どうしたらいいのだろうというところもあり、情報発信に特化するというふうに、強化と明言していただければ、そういった形のコンテンツ、情報としてつくれるのではないかなと思っている。ICTについては、散漫になってしまったが。

- ・公開空地の文化芸術の活用等といったとき、こういったものをイメージするのかという

ところだが、私は、池袋駅前の芸術劇場の野外劇とかができるようなスペースをパッとイメージする。

- ・賑わいのまちは、野外でできるスペースがあると、通りがかった人を巻き込めるという意味ですごく効果的

- ・賑わいにとってお祭りなんかもそうだが、見かけた人が「あれ、何だろう」と入れるようなスペースがあるというのは、すごくいい。

- ・賑わいといったときに、商売繁盛みたいな賑わいをイメージするのか、もうちょっとアートな感じをイメージするのかはそれぞれ違うと思うので、もう少し具体的な、どういうイメージなのだろうと思いつつも、賑わいという言葉が入ったのはすごくいいと思うので、そこをもう少し文化芸術に特化したイメージ、特化していなくてもいいが、人が集まる、そしていろいろな人が受け入れられるような空間というイメージをどういうふうに具体的にしていけるだろうと。像がなかなか浮かばなかったのが、浮かべられるといいと思った。

- ・会議があると、まず文化芸術って何だろうと思う。それに新宿がつくから新宿文化芸術、それを振興させる。いつもそこから始まるが、それでは抽象的になってしまうので、具体的に考えていこうというのが、この会議の中でもずっと出てきたと思う。

- ・具体的に考えたところに出てきたものがSFM。とにかく新宿区を全部ミュージアムと考えるというふうに初め考えたが、そうしているうちに、だんだん情報発信とか、いろいろなイベントを発信する情報誌になってきている。

- ・もう1つ、例えば落合の染色文化とか新宿区に元々ある文化を拾い上げて、文化財保護審議会でやっているが、そういうものをSFMに取り入れていく。もともと取り入れることになっていたが、だんだんそういう観点が落ちてきていると思う。それは悪いことではない。全部拾ったら大変な文化財の冊子になる。

- ・それでも新宿区には穴八幡、神楽坂の毘沙門天、赤城神社とか、割と知られた『江戸名所図会』に載るぐらいの名所がある。そういうものも拾い上げていきたいと思う。

- ・資料3の調査審議事項2の左下に「再開発の基本的な考え方に芸術文化を生かすことは大手鉄道会社が中心にやるので、文化や芸術を生かすことがすごくメリットがあると鉄道会社に理解してもらう」のはどこがやるのか。事務局が何か伝手を持っているのか。

- ・そういう事例があり、会社が文化を理解してくれると、だんだんお金を使ってくれたり、整備を進めてくれるという意見があった。区がどういう形で理解してもらうかまでの具体の議論をしたわけではないが、そういう意見が出たので記載した。

- ・大事なことなので、ぜひ。まだ何も出ていないからそういう段階ではないが、そういう交流をお願いすることになると思う。

- ・次に資料4、これは資料3をまとめたものかと思うが、議論もかなり深まっているのでより具体的な議論をということで、その真ん中の灰色で囲んである右側の「公開空地は基本的には民間の土地なので、有効利用されていなかったが、今後、本当のパブリックスペ

ースになるかもしれない。」はということなのか。

・専門部会で、先ほどのまちづくり戦略プランの中で公開空地を活用していこうという話の中で、本当に活用されたら、いわゆるパブリック、公共空間としての役割がだんだん進んでいくのではないかという話を受けて、そういう方向で、下の黄色のところは、公開空地等の公共的空間での文化芸術の活用方法を文化芸術振興会議としては、そういうものを中心に提言をしていったらどうだろうかという形でのまとめである。

・民間の土地の所有者との対話が必要になってくる。

・新宿駅西口エリア再開発について、この中で欠けているのではないかなと思うのは、高田馬場にもあるが、新宿はアニメ文化が割とある。アニメ文化と新宿区という視点から何か考えてもらいたいということと、新宿区の文化芸術を考えると、新宿区の住民の視点も必要であろう。

・中村彝のアトリエとかを保存しているのはすごくいいことで、夏目漱石もそうだが、文化人をもう少し発掘して、文化人の遺跡に関わるものをもう少し増やしてほしいという希望がある。

・新宿駅の周辺には百貨店や大きなホテルがあるので、百貨店とかホテルの文化というものも何か考えてもいいと思う。

・鉄道会社との関係について、二子玉川ライズとかをつくったときに、東急電鉄のトップの方が、これからは衣食住だけではなくて、遊ぶ、衣食住遊ということがすごく重要だと言っていたと川崎市長から直接お伺いした。

・鉄道会社もいろいろな考えを持っていて、今後のことを考えたときに文化的なものも「遊」だから、絶対に文化が入っていると思うが、そういうことを考えるのではないかと。時代は文化に向いてきたのだみたいなことを言ったような記憶がある。

・新宿駅周辺の再開発についても、鉄道系の会社が主体になるが、まちの賑わいとか今後の将来展望なんかも踏まえて再開発をすると思うので、そこに文化的な要素を入れ込む余地は非常にあって、いいタイミングで接触していけば、何かいい結果につながるのではないかなという期待を持っている。

・専門部会では、SFMの発信がもう少しあったほうがいいのか、公開空地についても私的な所有権のもとに公開されている土地なので、その使い方、利用の仕方は地権者が決めるということで、これまでは樹木を植えたりとか、そこでお休みにならないように物を置いたりとかして、なかなか自由に使えるものではなかった。

・それは非常にもったいないという議論もあり、そういったところをパブリックな形で使えるようにしてもらうことを提言したらというようなことも議論した。

・久しぶりにヨーロッパに行き、あまりにデジタルが進んでいるのにショックを受けた。

・全てがスマホのアプリで決済される。オペラハウスのチケットもネットで全て買えるだけでなく、決済しようと思うと突然寄附の金額が入ってきて、そのチェックを外さないと寄附まで含めた金額を払わされるぐらいシステムティックにいろいろなことが仕組み

ている。入場もバーコードが送られてきて、スマホを持って入る。

- ・席を指定するとそこからのビューが見られる。舞台までの距離感まで見える。買った後、メルマガが毎日のように配信される。こんなことをやるので寄附をくださいとか、様々なアピールがすごいことも驚いた。

- ・タクシーに乗ると、キャッシュレス、タッチレス、ペーパーレスで、W i - F i がついている。クレジットカードで払い、領収書は指定のEメールアドレスにPDFで送られてくる。

- ・日本は少し危機感を持ったほうがいいと思った。そういう目でICT、情報発信の強化だけでいいのかというのをすごく感じる。

- ・SOMPO美術館は日本の最先端をいき、ネット決済できて、いろいろな情報もマーケティングツールとして使われているということで、国際標準になっていると思うが、それ以外のところはなかなか進んでいかないと非常に強く意識した。

- ・ICTについては、もう少し、委員の皆様でいろいろな角度から丁寧に議論したほうがいいのかなと思う。

- ・パリでは、地下鉄からセーヌ川のほとりまでいろいろなアーティストの人が絵を描いたり、全身に色を塗ってパントマイム等いろいろなことが自由にできているところもある意味パブリックスペース、パブリックな意味もあるのかなと。まさに日常に溶け込むような、そういうまちになってもらうといいなという感じがした。

- ・2つ目、具体的な骨子案に向けての考え方で、いろいろなご議論をいただいたので、事務局ともよく相談して、効果的な、私たちが言いたいことだけを盛り込むということではなくて、行政としても受け入れられて、次につながるような形で議論を整理させていただいた上で、次回に向かいたい。

- ・公開空地もICTのほうも、もう少し具体的な意見を頂戴したいところだが、公開空地で、どのあたりを想定して議論したらいいのか、事務局から、もしお考えがあればご紹介いただければ。JRのデッキが1つ。あと東西自由通路とか、そのほか何か。

- ・公開空地はどこという話は、現時点で、東西を結ぶデッキがどのように整備されていくか、まだ設計等はされていないので、逆にそこに提言をするのはあるのかなとは思う。

- ・西口も大きな広場になり、車が入ってこないような形になる。担当者は、今の段階でどういうものを作れるかというのは、なかなか答えられないという話だった。

- ・どこを想定したらいいかという話であれば、今後つくられていく、人が自由に通れる公共的な民有地を含めてとか、そういう形でないとちょっと厳しいかなと思う。あまり具体的なところを今考えるのは難しいかなと感じる。

- ・にわとりが先か卵が先かみたいな感じだが、何をやりたいのか、どんなものができるのか、いろいろな切り口があって難しいが、今の話だと、まだいろいろなことが決まっていない段階なので、こちらで絵を描いていくつかお示しをするというやり方もできるかもしれない。それが全て通るわけではないが、こんなところがあったらいいねみたいなのをい

くつかお示しをするという感じになるのか。そういう理解でよろしいか。

- ・振興会議は、これまで政策につながる提言という形で、SFMが一番大きな話で、提言をいただいて予算化して、様々につなげている。一方、こういったものもいいじゃないかというような形、必ずしも政策には通じないが、こういった形も考えられるし、それも考慮してやってくださいと、そういった提言もあり得るのかと思うが、どのような表現になるかは、検討が必要かなと思う。

- ・大分先だが、多様性を表現する場というイメージで、SFMがやる事業や、あるいは参加団体がうまく生かせるといい。外部の人というのもあるが、まずコアとしてそんな発想をぶつけてみるとか、そういうことはあり得るのか。

- ・最初のイメージでは、SFMに関係なく、今はいろいろなところでライブをやっている。駅前もやっているし。道でやると窮屈で、いろいろ規制がかかって大変なので、自由な場が一番いいのだろうと思うが、何かSFMとつながりのある提案が少しできるのかどうかとか。

- ・表現をする場をつくることができるかどうかというようなことを、ちょっと感じた。

- ・時間のなかで今後どうやってまとめていくのかと思うときに、いろいろなアイデアをいただいておいて、できるかどうかも含めて、あるいは中長期的な課題として残すのかも含めて検討したいと思う。

- ・まちづくり戦略プランの新宿駅西口エリアの第2章「2. 快適で環境にやさしい都市空間の形成」の②の「k. 新宿中央公園と新宿御苑をつなぐみどりの軸を、緑陰のある街路樹の整備や沿道建物の緑化により創出します。」のイメージは、新宿を考える場合にすごく持っておいたほうがいいのではないかなと。新宿中央公園と新宿御苑をつなげる。

- ・公園を利活用するということも多分含まれるかと思う。私は、公的な空間というのか、地下鉄とか通路とか、できるだけパフォーマンスができるように規制緩和をお願いしたいと思う。

- ・例えばソラマチは大道芸がすごく盛んだったりする。自由度が高いスペースが確保できていれば、自然発生的に湧き上がるようなものがあるのではないか。

- ・花園神社の西の市とか、ちょっと怪しい感じとかあるのが結構好き。何か新宿ならではの懐の深さというか、そういうのを楽しめるような空間に発展していくような自由度の高いエリアがあると、とても楽しく、わくわくすると思う。

- ・できる可能性が大かなと思うのが、渋谷駅に岡本太郎さんの壁画がある。新しいところには、絶対メインとなる絵がある。それを新宿の佐伯さんであっても誰でもいいので、そういう方の作品があってもいい。

- ・瀬戸内国際芸術祭はびっくりするほど海外の人に人気で、現代アートは本当に受け入れられていると思うので、そういう現代アートのオブジェとかを展示する。それも新宿で活動している人とか。

- ・新宿は、織物とかほかにも伝統的なものも相当あるから、そういうものを展示するスベ

ースみたいなもの。すごく人が行き交うところなので、何かそういう展示スペースみたいなものが点々とあるというイメージはどうかと思う。

3 事務連絡等

第7期第5回の会議の日程や会場等については、別途事務局から連絡することとした。

4 閉会

副会長の挨拶をもって、午後4時に閉会した。

*SFM：新宿フィールドミュージアム